

都道府県名

佐賀県

学校の概要（平成15年4月現在）

|     |            |     |    |    |    |    |      |     |     |
|-----|------------|-----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 伊万里市立大坪小学校 |     |    |    |    |    |      |     |     |
| 学 年 | 1年         | 2年  | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数 | 3          | 3   | 3  | 3  | 2  | 3  | 1    | 18  | 27  |
| 児童数 | 100        | 100 | 84 | 90 | 77 | 91 | 6    | 548 |     |

研究の概要

## 1. 研究主題

一人一人が支え合い、高め合う算数科学習指導

## 2. 研究内容与方法

## (1) 実施学年・教科

全学年・算数  
 児童の理解の状況に差が出やすく、また、系統性が強い教科であるため。

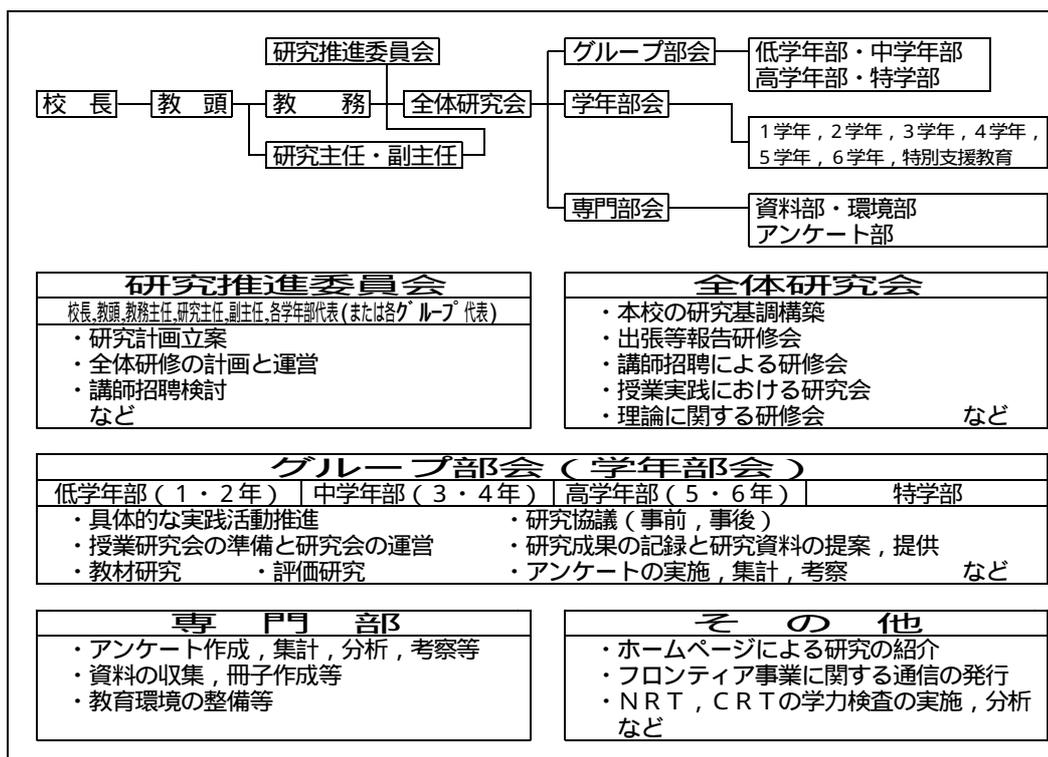
## (2) 年次ごとの計画

|                |  |
|----------------|--|
| 平成<br>14<br>年度 | <p>テーマ 「一人一人が支え合い、高め合う算数科学習指導」<br/>         研究の見通し（仮説）<br/>         児童同士の「支え合い、教え合いの学習」や適切な評価の工夫のもとに<br/>         授業実践を行うならば、児童一人一人に「確かな学力」を培うことができる<br/>         であろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発<br/>         (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善<br/>         (3) 形成的評価、自己評価、相互評価等を生かした指導の改善</p> |
|----------------|--|

|                |  |
|----------------|--|
| 平成<br>15<br>年度 | <p>テーマ 「一人一人が支え合い、高め合う算数科学習指導」<br/>         研究の見通し（仮説）<br/>         一人一人の考えを大切に「支え合い、学び合う学習」や適切な評価<br/>         の工夫のもとにきめ細かな指導を行うならば、「確かな学力」を培うこと<br/>         ができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発<br/>         (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善<br/>         (3) 形成的評価、自己評価、相互評価、学校評価等を生かした指導の改善</p> |
|----------------|--|

|                |  |
|----------------|--|
| 平成<br>16<br>年度 | <p>テーマ 「一人一人が能動的にかかわり、学び続ける算数科学習指導」<br/>         研究の見通し（仮説）<br/>         個や学習集団を適切にとらえ、個に応じた学習材を用意し、能動的にか<br/>         かわる学習を確立することができるならば、「確かな学力」を培い、学び<br/>         続ける態度をはぐくむことができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 児童の学習状況や指導内容に応じた適切な指導方法・指導体制の確立<br/>         ア 事前調査（評価等含む）による児童の実態把握<br/>         イ 素材研究による基礎・基本、内容の系統性等の確認<br/>         ウ ア、イを踏まえた指導方法（指導形態、学習材等）の確立<br/>         (2) 能動的な学習、共生・共創の学習の在り方の確立</p> |
|----------------|--|

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

本校は、算数科学習指導を中心に児童一人一人の学びや願いに応じたきめ細かな指導の充実を図り、「確かな学力」の育成を目指してきた。これまでの取組において、「わかる」「できる」児童が増えてはきたものの、児童は「学ぶ楽しさ」を感じず、受動的になっていた。また、少人数授業などきめ細かな指導の在り方の視点で単元や授業を組む際の指導形態に注がれ過ぎて、児童一人一人の姿を把握したり素材のもつ価値(基礎・基本)や系統を明らかにしたりする研究が不十分であった。

そこで、「児童の実態把握」「素材研究」「指導方法」の在り方を見直し、児童一人一人の姿をつかんで単元計画や授業作りを考えた。その過程で、「学習集団」を適切に見極め、個人差に応じた学習材を用意し、授業においては、意欲面を重視して「内発的動機付け」「支え合い高め合い」「自己評価」を中心に研究及び実践を行ってきたことで、確かな力を身に付け、「学ぶ楽しさ」を感じる児童が増えてきた。

特に、少人数指導においては、下記の点に留意しながら取組を行った。

低学年、中学年、高学年の各グループに指導方法改善担当者3名が入る。指導方法改善担当者が中心になって素材研究等を進め、各学年の担任と指導方法等を十分に検討するなど、指導体制の工夫のもと実践研究を深める。個人差を幅広くとらえ、到達の差、理解の差に加え、学習適性、学習速度の差などの習熟度別の少人数授業や興味・関心の違いによる課題選択別の少人数授業にも取り組む。

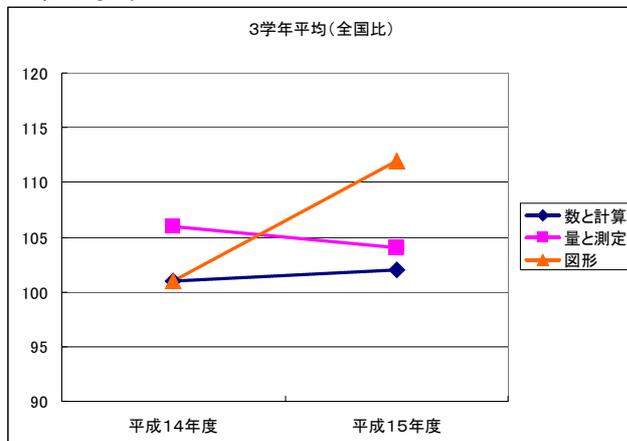
以上のように、今年度は、更に習熟度の個人差を多面的にとらえ習熟度別指導の一層の充実を図ることができ、それによって児童個々の能力を伸ばすことができた。また、数学的な考え方を育てるうえでも、児童の学びの状況に合わせて指導できたことは、思考する楽しさにつながったと感じる。

本校では、確かな学力の定着をみるために、毎年、算数科のNRT(標準学力検査)を行っている。NRTの分析・考察をもとに大まかな児童の実態をつかみ、新しい単元に入る前には、前提テストや事前テストを行い、児童の実態をつかんだうえで単元の指導計画を組むようにしている。今年度は5月下旬に実施した。

次のグラフは、平成14年度と平成15年度に実施した算数科のNRT(標準学力検査)における結果を領域「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」

別に比較したものである。(全国比を100としている。)実施対象となる学年は2学年以上の学年であるが、2か年間を比較するという事で、事例対象学年は3学年以上としている。3学年を例にとると、平成14年度の結果は2学年次の結果となり、比較対象の児童は同じである。他の学年も同様である。

(1) 第3学年

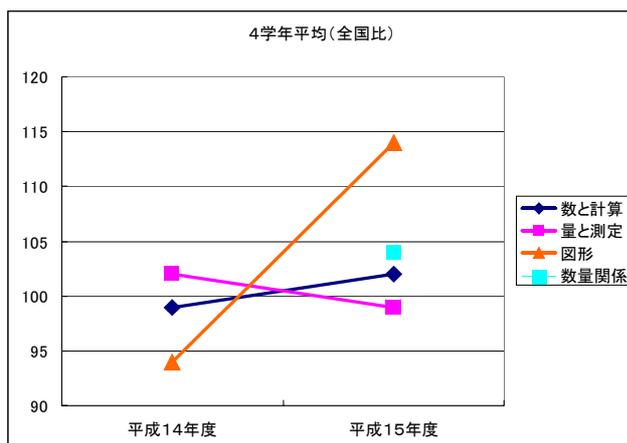


|      | 平成14年 | 平成15年 |
|------|-------|-------|
| 数と計算 | 101   | 102   |
| 量と測定 | 106   | 104   |
| 図形   | 101   | 112   |

全領域とも全国比を超えている。昨年度と比べ、「図形」領域の向上が見られる。

個別化による作業を取り入れた学習指導の成果の表れと言える。

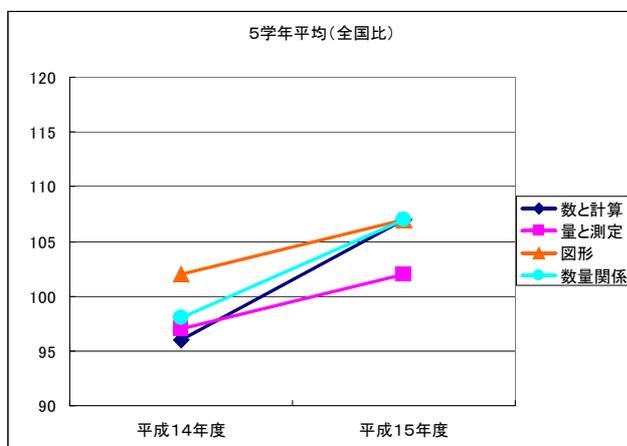
(2) 第4学年



|      | 平成14年 | 平成15年 |
|------|-------|-------|
| 数と計算 | 99    | 102   |
| 量と測定 | 102   | 99    |
| 図形   | 94    | 114   |
| 数量関係 | —     | 104   |

「図形」領域の向上が顕著である。TTによる役割別指導で効果的に個別指導が行き届いたと考える。他の領域については、ほぼ全国と同レベルである。

(3) 第5学年

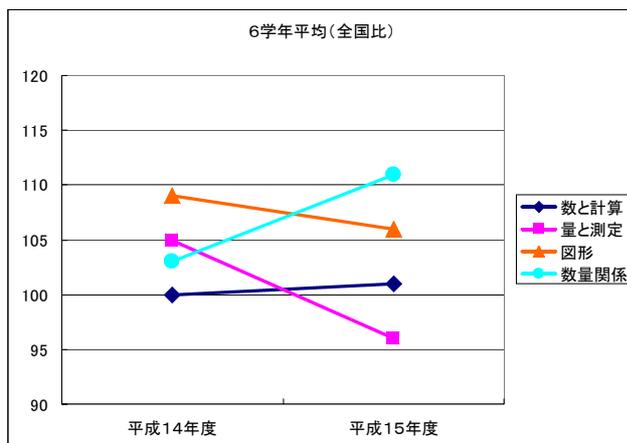


|      | 平成14年 | 平成15年 |
|------|-------|-------|
| 数と計算 | 96    | 107   |
| 量と測定 | 97    | 102   |
| 図形   | 102   | 107   |
| 数量関係 | 98    | 107   |

全領域についての向上が顕著で、「数と計算」領域については10ポイントも上がっている。

それぞれの領域において効果的な指導が行えたと言える。

(4) 第6学年



|      | 平成14年 | 平成15年 |
|------|-------|-------|
| 数と計算 | 100   | 101   |
| 量と測定 | 105   | 96    |
| 図形   | 109   | 106   |
| 数量関係 | 103   | 111   |

「量と測定」領域の落ち込みがあるが、それ以外の領域は全国比を上回り、中でも「数量関係」の伸びは著しい。

以上のように、領域、単元の特性や児童の実態（習熟、到達状況や学習スタイル等）を考え、単元や授業計画を立案する際、学習形態や手立てなど効果的な指導の在り方を探って臨んだ成果だと考える。一方で、相互評価や自己評価を行っているが、児童一人一人が存在感を感じ、児童同士で考えを磨きあい、自信を深めていることから、児童が主体的に学習へ取り組む姿勢が力となって表れているようである。

2. 今後の課題

- (1) きめ細かな指導を行うために、個や学習集団を適切にとらえ、個に応じた学習教材を用意する。
- (2) 児童が能動的に取り組む課題（よい問題作り）の開発を行うなど、能動的な学習を確立する指導の在り方を探る。
- (3) 児童同士で考えを磨き合う共生、共創の学習の在り方を探る。

学力等把握のための主な取組

1. N R T 検査
  - (1) 学力把握と指導方法改善のため
  - (2) 2 学年以上対象、算数科
  - (3) 5 月中旬～下旬
2. C R T 検査
  - (1) 学力把握と指導方法改善及び補充指導のため
  - (2) 全学年対象、国語科と算数科
  - (3) 2 月上旬
3. アンケート意識調査
  - (1) 学力把握と指導方法改善のため
  - (2) 全学年、学習（主に算数科）や生活に関する内容
  - (3) 1 回目（5 月）、2 回目（10 月）、3 回目（2 月）

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定
  - (1) 第1回公開授業及び研究会
    - ア 平成15年6月27日(金)
    - イ 伊万里市立大坪小学校の各教室及び体育館
    - ウ 学校職員、教育関係者、学校評議委員、保護者等
    - エ 研究成果普及と研究の改善を行うため
  - (2) 第2回公開授業及び研究会
    - ア 平成15年11月20日(木)
    - イ 伊万里市立大坪小学校の各教室
    - ウ 学校職員、教育関係者、学校評議委員、保護者等
    - エ 研究成果普及と研究の改善を行うため
2. 研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績及び今後の予定
  - (1) HPによる学習指導案等の開示  
<http://www.saga-ed.go.jp/school/ootubo/>
  - (2) 「研究のまとめ」の作成
3. フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績予定  
伊万里市教育研究大会にて本校の研究概要及び実践について発表(12月実施)
4. 研究成果の普及  
昨年度から継続して参会している方から着実に児童が変容しているとコメントをいただいた。また、伊万里市内など近辺の小学校においては、本校の研究を参考にして実践を行っているところもある。

- ~~~~~
- |                      |   |  |  |                             |
|----------------------|---|--|--|-----------------------------|
| 【新規校・継続校】            | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校         | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 |  |                             |
| 【学校規模】               | <input type="checkbox"/> 6学級以下              | <input type="checkbox"/> 7～12学級                |  |                             |
|                      | <input checked="" type="checkbox"/> 13～18学級 | <input type="checkbox"/> 19～24学級               |  |                             |
|                      | <input type="checkbox"/> 25学級以上             |  |  |                             |
| 【指導体制】               | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導   | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導   |  |                             |
|                      | <input type="checkbox"/> 一部教科担任制            | <input type="checkbox"/> その他                   |  |                             |
| 【研究教科】               | <input type="checkbox"/> 国語                 | <input type="checkbox"/> 社会                    | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | <input type="checkbox"/> 理科 |
|                      | <input type="checkbox"/> 生活                 | <input type="checkbox"/> 音楽                    | <input type="checkbox"/> 図画工作          | <input type="checkbox"/> 家庭 |
|                      | <input type="checkbox"/> 体育                 | <input type="checkbox"/> その他                   |  |                             |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |   | <input checked="" type="checkbox"/> 有          | <input type="checkbox"/> 無             |                             |